

# 会 議 議 事 録

会 議 名	平成30年度 第2回教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成31年1月15日（火） 14:00～16:00
会 場	中央動物専門学校 1915教室
参 加 者	<p>委員            坂本 敏、佐藤 洋子、渡来 純如、小澤 琢爾、笹井 利浩、            高橋 三行、齋藤 栄輝、藤川 進、宮澤 厚（欠席：久保 純）</p> <p>陪席者            関野 格至、齊藤 利章、原 太一、金子 友美</p> <p style="text-align: right;">以上 13名</p>
会 議 録	<p>1. 開会挨拶            座長の坂本敏校長から開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会が開会した。</p> <p>2. 運営計画（案）、教科構成表（新・旧）について            坂本座長と佐藤洋子委員から平成31年度運営計画（案）の説明、            渡来純如委員から平成31年度学則の変更、教科構成表（新・旧）についての説明があった。（配布資料参照）</p> <p>（1）平成31年度運営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の目的と教育方針</li> <li>・平成31年度運営重点項目</li> <li>・運営指針</li> <li>・学生在籍推定数</li> <li>・教育指導内容及び教育運営の充実</li> <li>・広報計画等</li> </ul> <p>3. 具体的検討            各学科の教育運営に対して必要な検討を行い、今後更に改善を要する案件や意見が挙げられた。主なものは次の通り。</p> <p>（1）愛犬美容関連科（愛犬美容科・愛犬美容研究科）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JKCの登録件数がピーク時の約半分へと減少（2018年）今後のトリミングにも影響が出てくる。学生数確保に各学校苦戦しているように伺える。学生をどの様に確保していくか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国・韓国のインターン生を受け付けた際、すごく真面目で意欲的で良かった。今後留学生の就労を考えていく。</li> <li>→本校は10名弱の留学生が在籍している。一生懸命でハングリーで頑張っているが、就労ビザが下りないのが現状。建設業、介護・福祉、サービス業（飲食）の人材不足と言っているが、ペット業界も人材不足ということを経界あげてアピールして頂きたい。</li> <li>・犬より猫の飼育頭数が上回った。猫を今まで以上に力を入れていくべき。</li> <li>→現在選択制ではあるが、猫美容実習は行っており、キャットグルーマーライセンスの取得を行っている。以前は必修で猫美容実習を行っていたが、アレルギー等の関係で選択制となっている。モデル猫の頭数が少ない為、提供いただける方の紹介も併せてお願いしたい。</li> <li>・生体の価格も上がり、JKCの登録件数も減ってきているのでトリミングの件数が減っているが、単価は上がっている状態。それに伴いお客様がショップを選ぶ理由として、個々のスタッフの技術の高さが重要になってくる。</li> <li>・受け入れる側の企業側としては、いかに長く活躍をしてスタッフとして続けてもらうかが重要。それに伴って、ペット業界の雇用条件の悪さや処遇の厳しさを言われ続けてきて、ようやく正社員化が進み始め職場改善がされてきている。それでも一般のOL等に比べると所得も低く、初任給も低いのが現状。目指すのは地方出身者も一人暮らしを出来るくらいの処遇。処遇改善をするにあってもただ給料を上げるだけだと、生産性が悪くなってしまう。生産性を果たすスタッフの能力、辞めない為の教育、環境作りが重要。</li> <li>・学校側でペット業界の現状や、将来性の話はもちろん、クレーム対応や、チームプレイ等コミュニケーション能力の授業強化をお願いしたい。</li> <li>→コミュニケーション能力等について、時間割の日数等含め、更に強化していきたい。</li> <li>・ペットを飼っていない、飼えない家庭が増えている。そこが、ペット業界が厳しくなっている部分でもある。一緒に生活すると楽しいという事を小学生等、高校生より下の世代へのアプローチが必要。</li> <li>→年に数回だが、共生科の学生有志により北区教育委員会の後援を頂き小学校低学年の児童、幼児を対象にふれあい体験を開催している。</li> <li>・ママさんトリマーの活躍に着目。今まで10～15年頑張ってきたスタッフがどう活躍できるか。お客様の要望として、この人にずっとやってもらいたい気持ちが強い。スタッフが年を取れば犬も年を取るので、トリミングに連れて来れない飼い主さんが多くいる。将来的に自宅への訪問、在宅でのケア等が会社的に必要になってくるのではないかと。</li> </ul>
--	---

(2) 動物看護関連科 (動物看護科・動物看護研究科)

- ・スタッフの卒業後教育の重要性を感じ、セミナー受講推奨や、ランチ面談による就職後の状況のヒアリングを実施している。中間クラスのスタッフが新人の指導をしにくい。中間クラスにはリーダーシップ講座の受講をしてもらう。新人もしくは2年未満のスタッフには、2年未満対象のセミナーを受講してもらい、仕事や、人生を見つめ直してもらうような取り組みを企業として行っている。
- ・高校生向けのイベントとして、病院見学やショップ見学など、高校生に現場を見てもらう機会を作ってみてもいいのでは。
- ・新人の求人をするにあたり、都内の学校訪問をしているが、中央動物は組織立って、カリキュラム等もとても良い。設備の良さや、教員のスキルなど他校との差をもっとアピールすべき。(中央動物卒業のトリマーは実習で多くの頭数をこなしている。他の専門学校の卒業生よりも、しっかりハサミが持ててカットが出来ると言われる。)
- ・グリーフケアの重要性の指導強化
- ・猫の実習強化
- ・動物看護師の公的資格化の推進
- ・動物看護師と獣医師との連携に向けた指導強化。
- ・しつけアドバイス等もっと踏み込んだ教育の必要性
- ・動物看護師の求人難 (特に地方、大阪でさえも集まらない)

(3) 動物共生関連科 (動物共生研究科・動物共生総合科)

- ・福祉施設側として、実習という事と慰問という部分で、入居者のお年寄りの方達が動物介在活動をととても楽しみに待っている状況。
- ・学生達が主体で実習後の振り返りをした中で、反省としてあがった事項を次回改善していこう、実習して体験した事を活かしていこうと、学習している様子から、安心して受入を行っている。
- ・11月からの感染症発生時期は手洗い等の徹底についても学生間で引継ぎが出来ている。
- ・特別養護施設で動物の飼育をする施設も増えつつある。実際に飼育している施設では、やはり入居者の方々に良い刺激になり効果が出ている。
- ・動物介在活動の実習先施設の一つとして、コミュニケーション能力の向上については、お役に立てる部分で今後も協力していきたい。
- ・鳥の生態供給が追いつかない。東南アジアからの鳥全般の輸入が厳しくなっている。その為ブリーダーも減って来ている。そのことから、学内で鳥の飼育、ブリーディングを試みるのはどうか。

	<p>→開校当初、鳥の飼育もしていたが、鳥インフルエンザの流行があり飼育の継続を断念した。今後は検討していきたい。</p> <p>(4) 各学科共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に対しては、教え方の工夫が必要。学生が飽きないためにも教材や指導法の改善を図るべき。(授業中寝ている学生がいるのは良くない)</li> </ul> <p>7. 次回委員会開催連絡</p> <p>次回の委員会を、平成31年6月18日(火)14:00~16:00とする。今期末で委員は任期満了となる3月中に新年度委員について改選・就任の依頼を予定。</p> <p>8. 閉会</p> <p>座長の坂本敏校長から閉会の挨拶があり、教育課程編成委員会が閉会した。</p> <p><b>【配布資料】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度 運営計画【案】(事前配布)</li> <li>・教育課程編成委員会 平成30年度第2回委員会 議事次第</li> <li>・教育課程編成委員会 平成30年度第1回委員会 会議議事録</li> <li>・各科教科構成表(新・旧)</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>